

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築（簡易版）2010年版
CASBEE-新築（簡易版）2010年追補版（BEI対応）
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)

1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	(仮称)ヨドバシカメラ新潟 新築工事 中央区 弁天一丁目18番 商業地域、準防火地域 物販店, 2016年3月 予定 1,553.86 m ² 1,250.62 m ² 7,622.87 m ² 地上7F S造 実施設計段階評価 2015年9月15日	
---	---	--

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{47.0}{42.0} = 1.1$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.1		バリアフリー	3.0
			維持管理	3.0
			更新性	3.4
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.1		耐震・免震	3.0
			信頼性	3.2
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物の熱負荷抑制	4.9
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.0		節水	1.0
			リサイクル材の使用	3.0
			再利用可能性向上	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	2.0		生物環境の保全・創出	1.0
			敷地内温熱環境の向上	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	2.5		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	2.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

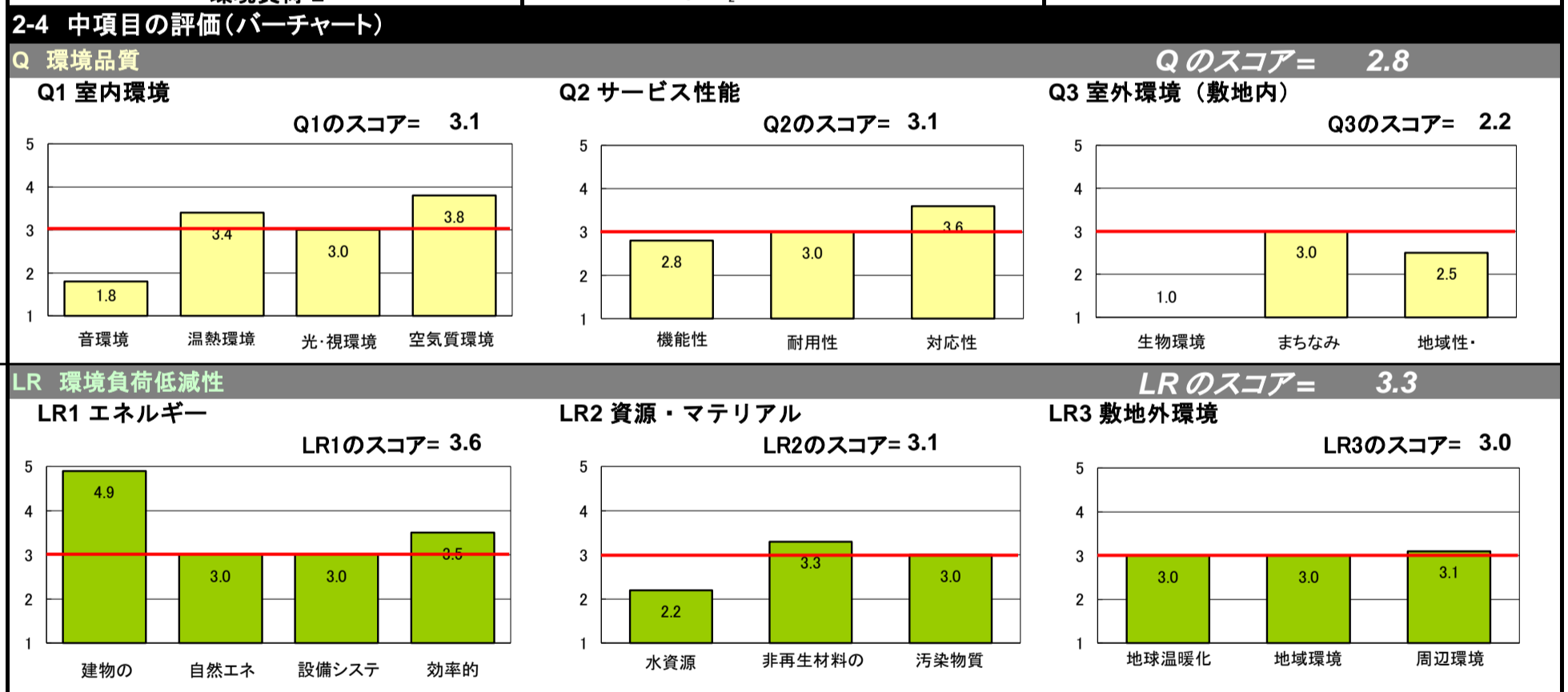
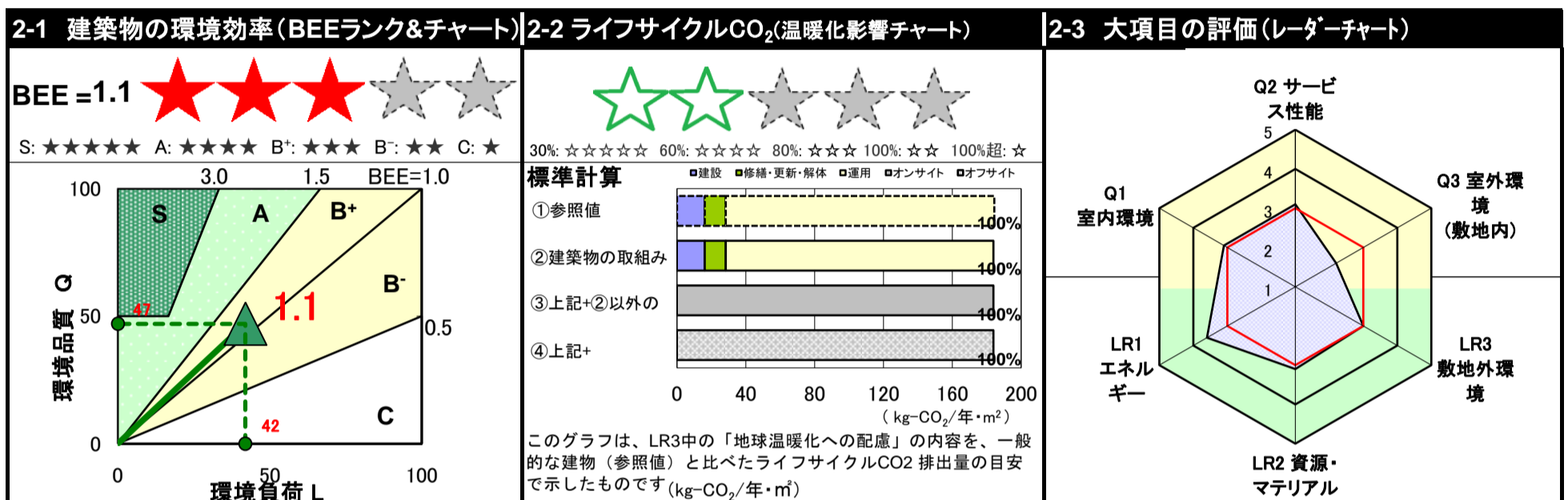
建物の持続性を維持することに配慮し、メンテナンス性の高い材料を採用することで、建物機能に即した変更に対応するための可変性高さを計画。また、周囲の景観を乱さないことに配慮し、建物外装は落ち着いた色彩で統一している。

CASBEE[®]新潟

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)

評価結果内訳

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ヨドバシカメラ新潟 新築工事	階数	地上7F
建設地	新潟県新潟市中央区	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	- 人
気候区分	-	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年3月 予定	評価の実施日	2015年9月15日
敷地面積	1,554 m ²	作成者	株式会社 福田組
建築面積	1,251 m ²	確認日	-
延床面積	7,623 m ²	確認者	-



3 設計上の配慮事項		
総合 建物の持続性を維持することに配慮し、メンテナンス性の高い材料を採用することで、建物機能に即した変更に対応するための可変性高さを計画。また、周囲の景観を乱さないことに配慮し、建物外装は落ち着きのある色彩で統一している。	その他	
Q1 室内環境 大まかな空調ゾーニング、ゾーン毎の冷暖選択及び適切な設備容量を計画することにより、室用途に適する室環境に配慮している。また、F☆☆☆☆建材を全面的に採用している。	Q2 サービス性能 耐用年数の長い材料や防汚性材等を採用し、建物の維持管理に配慮している。また、光ケーブル・メタルケーブル・PHS網等通信・情報設備の多様化をすることで、信頼性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 空調屋外機を建物屋上部分に計画することにより、景観及び敷地内歩行者空間等の暑熱環境に配慮している。また、前面道路境界からセットバックした建物配置とし、街路空間にゆとりをもたせる計画により、周辺環境に配慮している。
LR1 エネルギー 適切な断熱計画により外皮負荷を低減させ、全熱交換器やLED照明等の設備システムの効率化を計画することにより、エネルギー消費を低減させることに配慮している。	LR2 資源・マテリアル 内装を容易に分別可能な乾式工法で計画することにより、資源の保護に配慮している。	LR3 敷地外環境 燃焼機器を使用せず大気汚染に配慮している。ゴミ減量化計画(市)の取組みやゴミの分別及び有価物の計画的な回収等の計画により、廃棄物の発生抑制に配慮している。「光害対策ガイドライン」フェックリストを基に、光害抑制に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される